

平成 25 年 12 月 21 日

北関東フォーラム

於：シムックス

中斎塾 北関東フォーラム

平成 25 年度第 10 回

人生の五計

師走です。一年、長く感じた方もおられるでしょうし、短かった方もおられるでしょう。ここに居られる方は皆さん、師です。リーダーのポジションにある方が走り回る時期ですから、本当に締めくくりの時になったなと思います。そういう実感を持つ時期ですから、本日は安岡正篤先生の『人生の五計』をご紹介します。

生計・・・いかに生きるべきか。

身計・・・いかなる職業を選ぶべきか。

家計・・・家庭をどう作り上げるか。

老計・・・いかに年を重ねるか。

死計・・・いかに死すべきか。

以上の五つを、計り事として考える。死に至るところ（死計）まで考えたら、またぐるっと循環して新しく生まれる（生計）を考える。自然の摂理に即して循環しているところが役に立ちます。回覧致しますのでご覧ください。

『人生の五計』の中からいくつか紹介します。

老計について、安岡正篤先生は貝原益軒の『養生訓』を出しています。貝原益軒は、100歳まで生きた人を上寿、80歳を中寿、60歳以上を下寿と分け、50歳前に亡くなる人を夭（わかじに）としています。そして「長生きすれば、楽多く益多し。養生の術を行ない、六十以上の寿域（長寿の境）に登るべし」と書いています。

家計については、リンカーンの言葉を紹介しています。リンカーンは「男は齢四十になれば己の人相に責任がある」と、人相を見て採用したそうです。40歳になったら自分の責任において自分の顔をつくるということです。論語では「四十にして惑わず」とあります。皆さんはいかがですか。惑いのない、いい顔になっているでしょうか。

吾十有五にして学に志し、三十にして立つ…最近では30代では立ちませんね。30歳の成人式を企画する自治体もいくつか出てきています。どうも10年くらい遅れているような感じがします。30代で良い職業を見つける。四十にして惑わず…これで一生やってゆこうとい

うものが見つかれば素晴らしい。五十にして天命を知り…私はこの世に生まれて何をすべきか、自分の使命を悟る。六十にして耳順う…人の言うことを聞いてなるほどと思う。そういう気持ちが生まれてくる。しかし自分の考えは、そう簡単に曲げない。七十にして心の欲する所に従えども矩を踰えず…やりたい事をやりたいようにやって、世の中のルールを踏み出しはしない。

ちなみに、80代も同じで良いということでございます。自分の心の赴くままに行動してよいということですが、ただしそれには付随しているものがあるように感じます。80代の先生方を見ておきますと、まず健康がいけません。順調そうに見えても、やはりどこか、あちこちが悪い。ですから健康であり続けられるよう努力することが肝心です。

もう一つ、文芸春秋も回覧致します。先程の岡本代表幹事の挨拶で、猪瀬都知事が記者会見で汗びっしょりだったと言われましたが、同じように文芸春秋の中で櫻井よし子さんが猪瀬都知事について「人は何か隠そうとすると緊張する。必要以上に緊張しているのがありありと見てとれる」と書いています。人様のことを評論のタネにしている人は、やはりよく見ているものです。また、岡田晴恵さんが「強毒インフルパニックに備えよ」という文章を書いておられます。先週の東京フォーラムで大野参与からお聞きしましたので、今朝方買って電車で読んで参りました。

12月13日に行われた「安岡正篤先生を偲ぶ会」では、中斎塾から今井副理事長を中心に8名の方に参加戴きました。お礼申し上げます。非常に中味の濃い内容でした。私が習っている緑村吟詠会会長の藤田先生に安岡正篤先生の漢詩を献詠をして戴きましたし、日本漢詩学会の大御所の石川忠久先生がその解説をされ、尚且つ安岡正篤先生への手向けの二首も披露して下さいました。また、渡邊五郎三郎先生が「安岡正篤先生の思い出」と題して講演され、青年海外協力隊を発案された当時のエピソードなども盛り込まれて大変興味深い内容でした。おかげさまで非常に良い雰囲気、当初100名の予定が170余名の方がお見えになりましたので、会場も急遽変更致しました。

11月23日の社稷祭は、比田井副理事長が責任者で9名の方に参加を戴きました。こちらは所功先生が「お伊勢さんの式年遷宮から学ぶこと」と題してお話されました。日本人が日本民族の心を現代まで持っているのは、遷宮（出雲大社60年、伊勢神宮20年）の用意周到な準備、尚且つそれを支えてきたものの考え方・行動が相まって、今の日本人を形作っているからである。もう一度伊勢神宮を見直し、遷宮という意味を考え直しましょう…という話をして戴きました。前回の特別フォーラムで國分さんが、長寿企業について日本

は圧倒的に数が多いと話をされました。会社を長く続ける源泉は、この辺りにもあるなど改めて感じました。

明日を過去形でイメージする

では恒例の質問、一年間を振り返って如何でしょうか。

○ 一年間、ほとんど嘘をつかないできたという方

嘘をつく顔が緊張してきます。尖閣諸島沖で日本の護衛艦にレーダーを照射したことについて会見した中国の報道官は、顔が引きつって目が泳いでいました。話をする時、相手の目をきちんと見ないでキョロキョロしたり、緊張して汗が出るというのは、嘘をついて疚しい気持ちがあるという事ですから精神的に良くないですね。是非、来年1年間、嘘なしで行きましょう。

○ 一年間、良い日が続いたという実感がある方

精いっぱい良い日でありたいと考えて、それを続けられれば、良い一年間だったと総括できると思います。

○ 一年間、有難うと言ひ・有難うと言われることが多かったと思う方

皆さん手が挙がりました。有難うと言われることを是非続けて戴きたい。

○ 一年間、健康法を実践し続けた方。毎日でなくて結構です。かなりやったという記憶がある方。

○ 明日を過去形で考える習慣が少しは付いてきたという方。

明日を過去形でイメージするという事で、神藤さんに一つお聞きします。神藤さんは先月退院されましたが、入院している時、<早く良くなって退院したい>と思ったか、或いは退院して<退院したらあれをして、これをやって…>と考えたか、どちらの方が多かったですか？

(神藤氏)・・・後者です。

素晴らしい。これこそ明日を過去形でイメージする時の考え方です。意識には、顕在意識があり、その奥に潜在意識があり、深層意識があります。阿頼耶識という考え方は潜在意識の方です。阿頼耶識は人間の尺度でいう、良い・悪いは関係ありません。考えたイメージを増幅する作用しかありません。入院している時に<早くよくなりたいたい>と思うのは、今現在悪いという前提がある。顕在意識で<早くよくなりたいたい>と思う事は、潜在意識の中では<今は具合が悪い>ことを明確に意識しているわけです。その<悪い>という意識はどんどん増殖します。ですから、神藤さんが早くよくなりたいたいと思うとすると、潜在意識では、<悪い>だけがずっと広がるから、よくなるわけがない。ところが、治って退院

したと思うと、ガンガン仕事をしているイメージが潜在意識の中にも働き、そのイメージがどんどん増殖します。ということで、神藤さんの入院している時の意識は、明日を過去形でイメージするという、そのものズバリをイメージして闘病生活を過ごしていた。結果、早く退院できたわけです。

具体的な事例がありましたので、非常に説明しやすかった。何となく皆さんもイメージ出来ましたでしょうか？ <これで死んでたまるか>という感覚でなくて、<治ってしまったら何をしなきゃならない>という方に意識がいつている。ここら辺を何度も考えて戴くと、明日を過去形でイメージするということが見えてくると思います。

足るを知る

基本哲学は「知足」です。肝心なことは、今あるもので満足する。現在あるものを見直しして再強化する。ということは棚卸しが必要です。自分自身にこびりついている垢や汚れを全て綺麗に洗い流して見直し、棚卸しをして、現状を見、満足する。知足（足るを知る・ほどほど）とは、汚れを落とし現状の中で良いと思うものの中にどっぷり浸かる、そういう意識を持つこととお考えください。

ちなみに、先程の『人生の五計』の中で安岡正篤先生は、疲れて帰ると書斎に入って本のシャワーを浴びるようにしている、と書いておられます。書斎の「斎」とは、汚れを落とし洗い浄める。世俗で穢れたものを洗い清める場所に本を持ち込んで心のシャワーを浴びる、だから書斎と言うのだ、とも書いておられます。

中斎塾の「斎」も同じです。自分の中に知らず知らずのうちに身に付いた汚れ・穢れを洗い浄める時間であり、場所であり、更に中庸の「中」をプラスしています。ですから知足を実感する場所であるとお考えください。

浸潤の譜り・膚受の愬え

では論語の解説を致します。本日は顔淵篇 5～7です。

【五】司馬牛 憂えて曰く、人 皆 兄弟有り、我 独り亡しと。子夏曰く、商 之を聞けり。死生 命有り。富貴天に在りと。君子敬して失うこと無く、人と 恭しく礼有らば、四海の内 皆兄弟なり。君子 何ぞ兄弟無きことを患えんやと。

司馬牛が憂えて「誰でも皆兄弟がいるのに、私にはいない」と言いました。

司馬牛には実は兄弟がいます。ただ、兄弟の縁を切っています。兄の桓魋は孔子を暗殺しようとして計画を立てて実行に移しました。その後、宋の景公に対してクーデターを企てま

したが、これも失敗して投降しました。弟の司馬牛はそれを氣にやんで、兄弟の縁を切ったのですが、ずっと心の中に重くのしかかっていたと思います。

子夏がそれを聞いて慰めています。「私はこう聞いています。人の生死は天命であり、人の富貴（富や地位）も天が与えるもので、人間の力ではどうもする事ができないと。あなたに兄弟がないのも天命なのでしょう。だからそのまま素直に受け止めて、他人に接するのに恭しく謙譲の礼を尽くしていけば、周りの人達は皆兄弟のような形でお付き合いをしてくれるものです。だから兄弟がないことを憂えることはありません。」

「死生命あり」とありますが、それでも天命だからといって、「はいそうですか」と簡単に受け入れるわけにはいかない。あらゆる手立てを尽くして何とか生き延びたいと思うのが人間だなあと、最近強く思います。

【六】子張、明を問う。子曰く、浸潤の譖り、膚受の愬え、行われざるを明と謂うべきのみ。浸潤の譖り、膚受の愬え、行われざるを遠と謂うべきのみと。

「浸潤の譖」とは、じわりじわりと時間をかけて同じ情報を色々な角度から画策をして、相手に信じさせる。「膚受の愬」とは、相手に衝撃を与えて、考える暇を与えずに信じこませることです。

子張が孔子に「聡明とはどういうことですか」と聞きました。

孔子が答えて「浸潤の譖りや膚受の愬えに騙されないことだ。浸潤のそしりや膚受のうったえを見破って惑わされなければ、遠くを見通した見識を持つ者といえる。」

【七】子貢、政を問う。子曰く、食を足し、兵を足し、民之を信ずと。子貢曰く、必ず已むことを得ずして去らば、斯の三者に於て何れをか先にせんと。曰く、兵を去らんと。子貢曰く、必ず已むことを得ずして去らば、斯の二者に於て何れをか先にせんと。曰く、食を去らん。古自り皆死有り。民信ずる無くんば立たずと。

子貢が政治の基本を尋ねました。

孔子が言うには、「食物を十分にし、軍備を十分に於て、民の信用を得ることだ。」

子貢が更に尋ねました。「やむを得ない事情で削るとすれば、三つの項目のうち何を先に削りますか。」

孔子が言うには、「まず、軍備面を削ることだ。」

子貢がまた尋ねました。「万一の場合、二つの中のどちらを先に削れば良いでしょうか。孔子が答えて、「食物を削ることだ。古来より人は必ず死ぬものである。しかし、国民に国家を信じようという気持ちがなければ、政はできるものではない。」

相互支援協定を結ぶ

後半は、時事評論と干支を絡ませながらお話致します。時事評論をする時には時代の流れを見なければいけません。それには干支学がよろしい。

来年は甲午（こうご・きのえうま）です。文字を調べますと、加藤常賢先生は、甲は種子が中から膨張して表皮が裂ける音、午は杵でとんとんとつく音であると解説をされています。白川静先生は、甲はすべてのものの始まりであり、午は杵の形であり呪器として用いたと解説されています。簡野道明先生の『字源』には、甲は始まる、午は逆らうとあります。大漢和辞典では、甲は亀の甲羅であり、草木が萌え出た時の芽についている種の皮、髑髏、よろい。午は五月・正面、動物では馬とあります。安岡正篤先生の解説は、甲は鎧をつけた草木の芽が殻を破って頭を少し出したという象形文字で、新しい創成を始めること。午はそむく・さからう、と書いてあります。

そのように字を眺めていると、アベノミクスが見えてきます。今年（H25年）1月1日発行の季刊誌「知足」に、平成25年から平成29年までの5年間は黎明、これからの5年間は、幕が開く準備段階の5年間だと捉えて下さい、と書きました。更に、平成26年は殻を破って新しい勢力が芽を出すけれども、反対勢力があり、なかなか伸びてゆかない伸び悩みの年である、とも書きました。

来年は物価が上昇しますが収入は増えず、支出が嵩みます。家計は苦しくなる一方でしょう。税金も消費増税は決定事項ですが、眼に見えない形で増税が進み、あらゆる個人は重税にさらされると考えています。

中国の挑発行為がエスカレートして、戦端が開かれる危険性が増していますので、ちょっとしたきっかけで世界恐慌が起きる可能性と併せ、戦争が始まってしまう事も視野に入れねばならないと思います。

食糧やエネルギー・水・電力は不足する可能性がありますから、自給自足の仕組みを各々が本気で準備しなければなりません。病人や高齢者は命をつなぐ事が困難になりますし、通貨も従来のように機能しないということが見えてきます。更に、自然災害が発生すると、今迄は助けられた命が助けられなくなる事態も想定されます。

そうなると相互支援協定が必要です。自治体では3.11以降、相互支援協定がかなり広がっていますが、個人でも親戚や友人・知人と相互支援協定を結んでおいて、自分の地域が

機能しなくなった場合、他の地域に住んでいる親戚や友人に支援をお願い出来るような連絡網をきちんと作っておくとよろしいと思います。かなり離れた地域に、信頼できる人間と相互支援協定を結んでおく。しかもお互いに支援し合おうという具体的な形で約束を結んでおくことをお勧めします。具体的な約束を結ぶには、出来れば出かけて行って顔を合わせてよろしくとお願いする。そうすると 1 年くらいは約束が活きますね。個人と家庭はそういう動きで進めたなら、次は自分が所属している会社も同じです。組織・自治体・国家間も同じです。

来年は是非、そういう動きをして戴くとよろしいでしょう。旧交を温めることが必要だと思います。ただし、「こちらからこういうものを送るから、貴方はこういうものを送ってよ」と言い合える信頼できる友人・知人がいることが条件です。

時事評論

昨日の産経新聞に、中国の新ミサイル試射の記事がありました。これによって「北米のほぼ全域が大陸間弾道ミサイルの射程に入った。核弾頭の保有数も今後、増加するとみられる。中国の国家安全維持の新たな礎になるとし、アメリカの中国に対する認識を変えると主張した」とあります。中国がアメリカに対して挑発行為をしたわけです。尖閣諸島についても、中国は防空識別圏を勝手に決めて民間機であっても撃ち落とすという恫喝をしています。近隣諸国は皆それをやられているわけです。中国の挑発行為は止まりません。ということで、戦端が開かれる危険性があります。

同じく産経新聞のコラムに掲載された北朝鮮の張氏処刑に関する論文を見てみます。韓国からの外貨支援はほぼ止まった、とあります。韓国は 98 年から 10 年間 100 億ドル相当の支援をしましたが、最近は厳しい経済制裁をかけています。日本も経済制裁をしています。北朝鮮に対して朝鮮総連を介して出していた支援も全部カットしているわけですから、北朝鮮は干上がっているわけです。その結果、北朝鮮は張成沢国防委員会副委員長を処刑した。張成沢という人は、自分の利権で懐にお金が入っていたのが、経済制裁によってお金が入らなくなってしまった。それで軍部にお金が上がってくるルートを自分の所に置きかえてしまったわけです。軍部は自分の懐を横取りされたものだから、粛清をかけたというわけです。公開処刑は機関銃で掃射をかけたということですから、かなり酷い粛清です。北朝鮮は揺れ動いてしまった。それに対して中国は、最低限の重油と石炭、トウモロコシを与えているものの現金は渡さない。中国から見れば困い者、子分ですね。生かさず殺さずで、辛うじて食べていけるだけのものしか中国は渡さないという動きです。

来年は眼に見えない形で増税が進む、世界恐慌がちょっとしたきっかけで起こりますと申しましたが、昨日の産経新聞に「景気回復半ばの決断 アメリカは量的金融緩和の縮小を決断」とあります。対して今朝の日経には「日本は物価上昇率年内に1%を超える。大規模の緩和は来年も継続する」とあります。アメリカは量的緩和を縮小・止める。日本は緩和・続けると言っている。綻びが出ていますね。日本はアメリカの後を追いかけるわけですから、少し経ってから日本も縮小する方向にいくとは思いますが。このようにアメリカと日本のやり方が違っていると、どこかで綻びがあって、世界恐慌が起きる危険性が増してきつつあるということが見えます。

その他の記事を拾ってみます。

「地方の借金止まらず」・・・日本の中はどんどん税金が膨らむ。地方も自治体の借金が止まらない。日本は今、喘いでいます。その中で、お金をどんどんばら撒こうとしている。

・「医師会に入る 420 億円。診療報酬 0.1%増で決着」

・「年金 2000 万円、不明のまま」

・「介護負担 2 割値上げ 夫婦年収 359 万円以上」・・・夫婦の年収 359 万円以上は中間所得層だから、介護の税金を少し上げる。単身世帯の場合は、年収 280 万以上は中所得者と見なして増税するという事です。今、中所得者と見なすのは年収 200 万が一つの目安となって来つつあります。

・「ニトリホールディングス、純利益最高」・・・ガンガン儲かっているけれども、消費税は完全に転嫁しますと他の新聞に出ています。ですから儲かっているものほど、消費税は転嫁する。儲かっていない苦しいものほど消費税を転嫁できない、自分の所で負担しなければならない。今、そういう世の中に変わってきています。

新聞記事を幾つか申しましたが、これらの新聞記事から透かして見えます。ちょっとずつ変形してメディアは伝えていますから、くれぐれも鵜呑みにしないで、ご自分の判断で読んで下さい。そうしないと間違えてしまいます。

全体の流れで見ていくと、アベノミクスは伸び悩み・停滞がはっきり出ているわけですから、成功しましたと言うはずがない。アベノミクスは失敗します。第三の矢は成長戦略ですが、いみじくも一昨日の新聞に安倍さんの発言が出ていました。「アベノミクスで大企業の利益がどんどん増えている。大企業の社員は給料が増えている。これが末端の中小零細に広がらなければ、アベノミクスは失敗だと私は考えています。」つまり、中小零細にま

で恩恵が行かなければアベノミクスは失敗だと事前に喋っているわけです。失敗した時のために布石を打っているという感じがします。そんなにうまく全体に恩恵がいく筈がない。大企業は確かに恩恵を被るかもしれない。ベースアップを容認するような発言がありましたが、それほど継続的に年収が上がるような動きではありません。カンフル剤でちょっと上げるという動きが起きているだけです。

収入は増えません。良くて横ばい。悪くて減ります。それでいて、出るものはどんどん出ます。ですから気をつけることです。では何をするか。年収のうち苦しくても1割から2割を天引きして、不時の出費に備える必要があります。先ほどの相互支援協定とあわせて、どうぞ対応をして戴くことを申し上げて終わりに致します。